

椿説弓張月

後篇

叁

~ 13  
2945  
9



門へ13  
2945  
巻 9

鎮西八郎 椿説弓張月後篇卷之三

東都

曲亭主人編次

第九回

為頼前裁紙寫と弄  
八郎苦計朝稚以遣

嘉應二年四月下旬嶋冠者為頼ハ舍弟朝稚もに大なる紙を造  
らじ多ひがやがて鬼夜叉とて野嶋大嶋の館の前裁紙出され紙場んと同  
胞風とてはふ心づりしとぞおしちたて伊豆相摸より西の河井至  
ほて紙を造る尤精細禽獸花卉の取その意にせざとらひの好くこれ  
を弄ぶに春も夏も夏のはじめより五月を隆とすれり。しやへよりあり。あは  
ども大嶋の洲へあへいざかかれり。世のりともあふばれば衆皆怪有のさ  
はは。これをえんとて築牆の外に集合り。このとれ為朝とこのみの夜深田

春説弓張月後篇卷之三

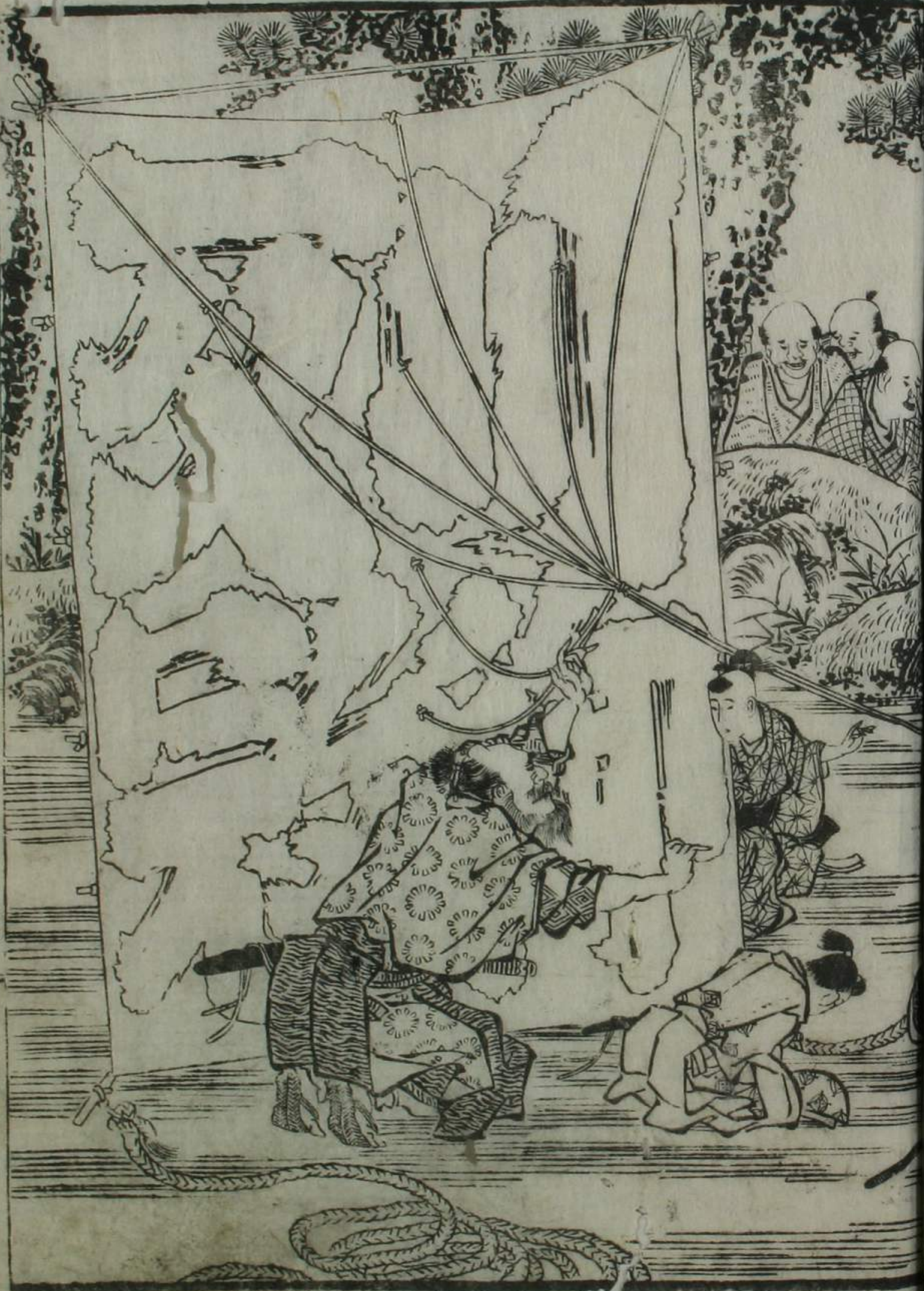
昭和九年  
七月九日  
購求

二訂時貞を以てししが。終て縁由に龍江鬼夜又も告あつと。藤朝稚人  
あれど送り遺さる計策を設あたまひおけは。稚子もら鬼夜又も彼紙  
おき紙曳揚せんともふとたふして。むら前裁お出多へ。龍江も又嶋君と  
誘引て。その後方に復ひせり。かて為頼朝稚父のまゝをそとて礼儀  
正し。ほろり近く畏まふと。為朝竟然あうら笑く。まづ子どもら。紙を場  
こまればよ。頃日竹を削ら。紙お粘されは。いさつが。とも大に中に。愛くを造  
つた。この紙をといふもの。しし前漢の韓信が。じめて造つた。は。原歌  
の城中と。ん為の軍器なり。あれが。汝達を觀と。されお越打ら。く。あは。勝り  
かく大に中り。紙を。風箏形。その。と。せ。れ。物と  
貸さ。これを附よ。仰て。腰の間より。一管の笛と。出して。又宣ふ。そ  
これ。し。新羅と。即義光。八幡太郎。ぬく。樂好。豊原時元を師じて。学

ふ。その藝中。熟し。秘曲傳授され。不及で。時え。ま。ら。この笛を。義光。お。つ。り。  
抑との。笛。樂人の。脣。以。用。ひと。吹。する。風。に。中。れ。た。の。お。の。ほ。ろ。ろ。音。が。幾。く。悲。の  
吟。と。れ。が。如。し。と。れ。未。曾。有。の。物。と。い。ふ。汝。達。稚。け。且。ば。い。ま。見。せ。り。目。く。其  
紙。を。に。附。く。風。箏。小。ま。よ。じ。と。宣。ひ。て。朝。稚。小。遣。は。し。ま。ふ。朝。稚。幼。く。受  
と。ん。と。す。れ。よ。悞。と。忽。地。撲。地。と。り。落。し。歩。石。お。打。め。つ。笛。の。う。つ。と。割。か。か  
朝。稚。へ。い。つ。も。と。り。わ。り。衆。皆。さ。び。失。ひ。て。子。に。汚。極。れ。が。り。あり。その。を。れ。為。朝  
勃。然。と。し。て。声。が。り。立。ち。や。れ。朝。稚。沙。京。性。輕。忽。し。て。み。に。憤。と。故。お。か。れ。過  
か。い。と。い。ふ。り。この。愚。蠢。が。養。育。の。父。後。親。に。恥。お。え。せ。家。も。汚。と。ど。其。處。退  
そ。と。罵。も。の。い。ど。刀。の。鞘。お。ま。か。け。ま。ば。龍。江。鬼。夜。又。慌。忙。に。て。處。り。と。あ。り。あ  
とも。に。し。り。け。れ。に。稚。子。の。過。將。か。び。い。り。て。も。ま。僅。七。女。あ。て。お。り。を。ね。ら。に。尺。一。管  
の。笛。吹。り。て。骨。肉。と。傷。ひ。ま。る。ん。の。いと。歎。か。し。は。び。く。許。し。ま。し。と。言。語。を。盡

ろく勸解マヒ申まをすは為朝頭あそらうなりち揮うり。汝まがホが言違ことごとへり。苗なえとて家いへ乃重なり  
 器きなりとて惜あはむふめらねど。這よつ奴がが父ちちを軽かろむれ罪つとを種たねしやてこの儘まま已やむ  
 かの世よの常言ことごとに雛虎ひなこが養やしなひく患うれひ忘わすれしことあり。彼かれ推おしやなり  
 いづ放ちやがじ。あふのれ。汝まがホがけほぐにいふ。下しもに聽きどは。慈あはみりた親おや  
 とやありんより。今いま面おもてのうりに刀やいばの錆さびとてさる。放ちやへ苗なえのかり。此こ奴が  
 紙しきりに捨すり著つて。風かぜはほして引場ひきばに。中なかぞうに至いたれとれ。その麻糸あし  
 をおて走はりて。倘た幸さいはして沖おきに船ふねに落おちか。或あるは伊豆いづの湊みなとなりへ  
 落おちるとは。九死くじの中に一生いっせいなり。おり。とれ。獅子しし。その子こは谷やより落おちて。剛ごう  
 策さくが試しむ。小死せうじとて。いづも悔くむ。あふとて。勇士ゆうしの子こは棄するも又またさる。汝まが  
 亦また悔くむ。ひ凍こむことおれ。といた。されは。朝あ推おしの襟えり髪かみなり。い。細こみ。ま。げ。ら  
 張はり。へ捨すり。若わ場わよ。と。下しも知しる。多おほく。為な頼たのむ。され。く。父ちちの。ほ。に。額ぬかに。ま。

情なさけの甚おほく。あふ。と。か。う。い。は。ん。畏おそれ。ど。お。れ。も。入いる。と。れ。も。兄あに身みと。入いる。と。れ。も。  
 ほ。て。暮くり。け。り。し。に。朝あ推おし。う。り。も。ひ。て。翌あしたより。後のちと。ま。う。く。に。慰なぐさむ。か。ら。う。ら。  
 海うみの。そ。こ。か。と。お。り。い。と。げ。ら。に。い。は。は。こ。も。け。り。た。され。ば。の。鳥とり頼たのむ。お。り。ふ  
 ほ。に。鞭むちも。く。朝あ推おし。あ。ゆ。れ。ま。も。又またう。り。た。は。兄あに身みなり。後のちの。猶なほ  
 みに。引ひいて。ま。ら。海うみの。底そこの。水みづ屑くずと。う。り。け。り。ん。事ことの。死しは。為な頼たのむ。が。紙しき。を。  
 造つくり。て。よ。し。お。れ。遊あそび。を。い。せ。く。身みなり。け。り。し。ひ。け。り。た。と。何なにと。せ。ん。は。ほ。して。  
 己おのれ責せむ。ま。ご。り。も。親おや。恨うらむ。孝行こうぎょうの。お。は。じ。かり。ひ。小嶋こじま君きみと。い。ふ。も。ほ。て。  
 い。づ。お。り。免あまり。多おほく。と。かり。に。送おく代しろの。袖そでの。兩ふた臂うで間まの。け。り。に。お。り。り。け。り。と。れ。は。  
 ぞ。く。筋すぢ江えを。友とも音ねに。よ。と。泣な流ながる。同どう胞ぱうの。心こころあり。せ。ん。と。そ。政まつり虫むしと。と。津つ嶋じまを。  
 汝まがも。怕おそむ。け。り。た。も。お。と。誓ちかひ。ま。れ。健たけ氣きと。よ。い。う。に。勇ゆうた。が。武ぶ士しの。常つねお  
 と。ば。と。て。情なさけは。地ちを。走はり。て。天あまを。も。も。子こと。お。り。の。ね。と。ま。れ。り。の。け。を。ほ。よ。く



朝稚當と  
破て父子  
愛と色  
ま







う。父の恨をもちし。ゆゑをまへとて。おいて。暗路に。親の胸に。泣き。こ  
子も又同胞の。これ。今生の別と。公けられたる。あつたがに。うら。悲し。は。も。り。や。は。し  
ぬ。為。朝。敷。回。嘆。息。し。船。江。鬼。夜。又。恨。は。ら。れ。る。あ。れ。ど。も。れ。汝。ホ。と。疑。ひ。し。  
あ。つ。せ。う。れ。ふ。の。ふ。に。十八里の海上に。隔。ち。朝。稚。が。お。り。遣。と。お。れ。ば。存。亡  
は。に。定。め。か。く。凶。多。く。して。吉。少。し。愁。に。彼。浦。へ。か。た。して。海。の。底。に。沈。こ  
る。が。あ。が。計。も。あ。ら。じ。い。は。し。ん。が。ど。め。り。や。え。あ。し。の。救。え。れ。た。と。  
悲。み。却。め。う。らん。か。と。お。り。ひ。も。あ。し。の。で。き。れ。一。面。う。さ。よ。落。し。た。り。の。浮。世。の  
我。我。取。る。た。ハ。武。士。の。意。地。が。り。か。し。と。宣。ふ。あ。ぞ。み。お。理。お。迫。れ。く。又。潜。然。泣  
お。け。て。朝。稚。の。う。ち。の。後。の。巻。浩。処。お。沖。の。鷗。猛。に。群。飛。く。葦。鹿。頻。お。鳴。け。け。は。  
為。朝。耳。が。側。に。お。り。船。江。鬼。夜。又。ホ。と。え。く。り。汝。ホ。あ。れ。た。ん。よ。海。面。頻。は。恩。劇  
と。れ。ハ。討。ま。の。兵。船。と。も。近。つ。れ。た。と。お。は。れ。た。ぞ。介。候。せ。よ。と。仰。も。果。ぬ。お。鬼。夜。又

あ。つ。走。り。登。り。頭。が。め。ぐ。ぶ。じ。つ。は。う。を。や。う。う。て。駈。れ。軍。勢。う。み。敵。と。五。百  
餘。騎。兵。船。と。二。五。六。艘。も。の。れ。し。去。先。不。漕。舟。も。船。不。蝶。の。紋。は。た。る。水  
引。た。れ。を。嶋。之。郎。太。夫。忠。重。あ。ら。ん。菴。木。瓜。ハ。藤。茂。光。之。麟。ハ。北。條。有。り。  
その。対。の。旗。の。紋。ハ。あ。か。と。え。く。う。ぐ。と。り。い。も。岸。と。去。る。と。遠。か。ら。と。勢。猛。く  
こ。え。の。こ。ま。に。と。れ。ご。と。く。う。お。ぞ。為。朝。が。て。冷。嘆。ひ。さ。う。は。最。期。の。用。意。せ。ん  
船。江。を。子。ご。も。ら。を。扶。け。し。れ。と。も。に。其。よ。じ。と。て。廣。庭。に。て。入。り。ま。さ。ひ  
切。て。入。る。う。に。漂。よ。く。こ。も。え。お。け。た。

第九二回

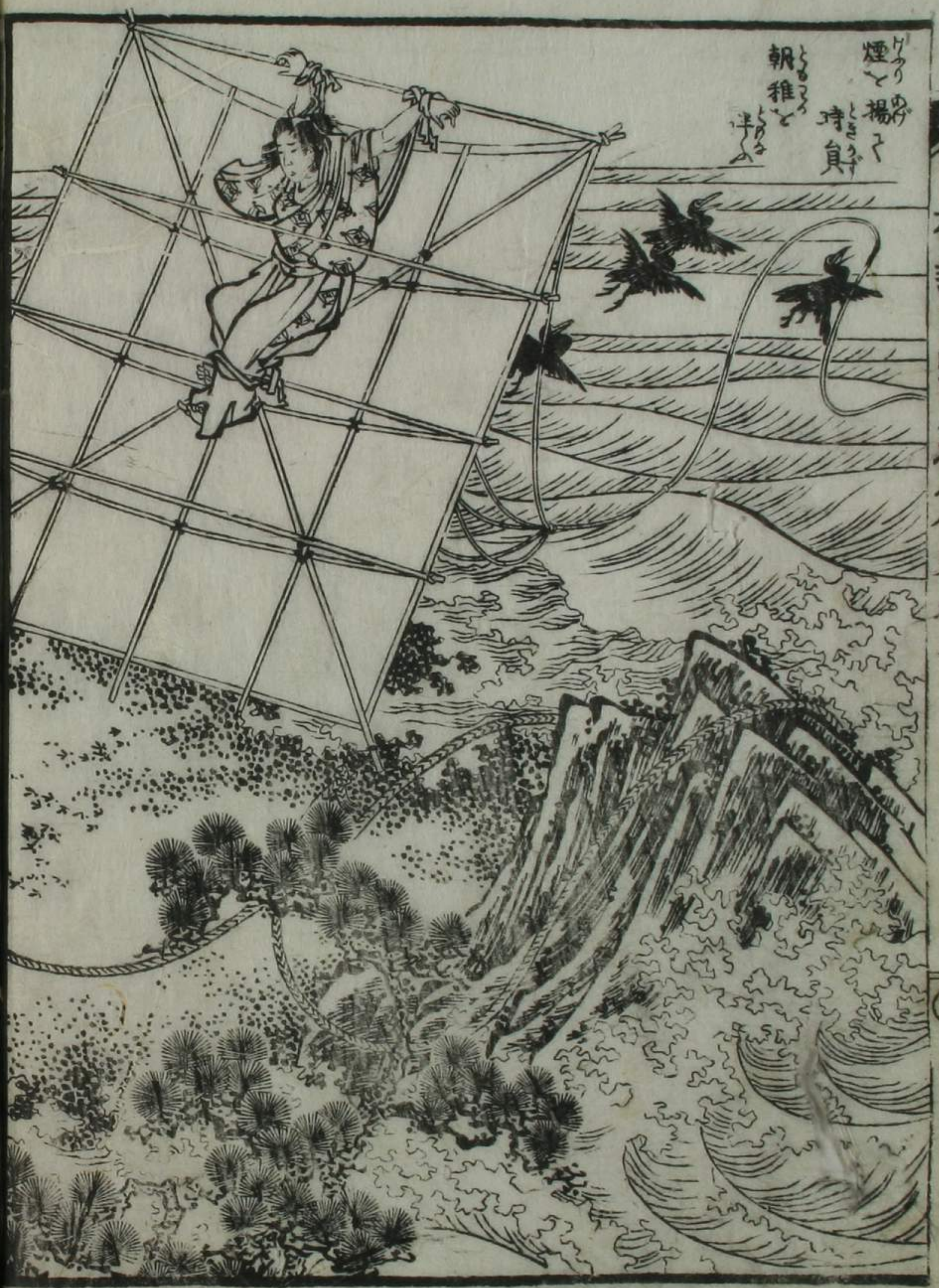
船が棄て孝子志を述  
館が焼く忠臣主を代

狩野今二藤茂光と今茲嘉應二年の春京上りして孝く為朝父く  
武勇が逞しし。刺鬼が嶋へ渡り。鬼童が奴僕として。人民が黙るを





煙の揚る  
朝の雅  
時貞



訟<sup>うたが</sup>やぶる保元物語云々との天子の高倉院高倉院の御諱少ておしけごと天下のるの後白

河院高倉院の御父あり制度をまじへば上皇後白縁由を食て驚せむもいふ事だ

名をたれ勇士ホハ催し。為朝ハ誅伐のさごとて。懸て宣言とまされしわ。

茂光欣然として伊豆ハ馳下て。俄頃ハ宣言のかりひきハ令をばして。國人

ハ催促し。四月下旬に至て用意全く整ひし。大鳴ハ斥て進發を茂光

ハ相従ふ兵士は誰くぞ伊藤祐親北條時政宇佐美平太同平二加藤太

光貞加藤二景廉沢六郎新田四郎天野藤内遠景ホこれを宗徒の大將と

あく。その勢都合五百餘騎帆と張浪ハ押して。真一文字に寄たりし。其

とハ御曹司為朝と金禰の鎧直垂ハ精好の大ハ張らせ紫下濃の鎧

著て銀の磨著とされ。懸當ハ黄金作の太刀と佩鷲の羽の征矢と十六

指とれを。答高ハ負ふし。滋藤の弓ハ握太かれ真中と取とるは。いふこと

ハ龍ハ金少て打とられ。白星の五枚兜ハ鬼夜又ハもどく床ルハ係り。為頼

嶋君ハ左右に侍りし。藤江ハ酌ハとらして。寂期の盃ハめづりし。なす。冠者

為頼幸るは切種といふも。勇ハの萌ハられ。ころびれ。あつ。時射中るく

ハ。い。移れ。鬼夜又もみ出ては。う。い。中。あ。に。至。つ。て。後。悔。途。ハ。た。ハ。い。は。な。と

君智仁勇の三徳ハ兼は。と。い。ひ。お。ら。武。運。微。く。して。嶋。守。と。な。り。た。ま。ら。う。へ。ハ。

能ハ一匡と光を瘞み。時ハ結む。か。り。し。に。勅。ハ。嶋。君。ハ。管。領。して。茂。光。忠。重。ハ

猶。と。ま。ひ。し。う。後。ハ。侍。人。の。舌。頭。に。係。れ。し。一。年。其。の。志。ハ。伸。れ。不。及。と。し。座

く東海の果に後ハとりまふこと。いと巧を。し。と。や。げ。れ。ハ。為。朝。莞。尔。と。う。ら。笑。ま

思。中。る。鬼。夜。又。も。れ。保。元。ハ。勅。勤。ハ。盡。り。て。配。軍。と。お。り。し。と。さ。の。十。餘。年。ハ。南

越。の。主。と。な。ら。う。と。さ。は。な。ら。う。は。樂。し。め。り。その。以。前。も。九。箇。國。ハ。管。領。し。た。と。い

出。た。れ。し。め。ら。れ。荒。紫。と。て。ハ。菊。池。原。田。ハ。始。と。して。西。國。の。の。の。も。い。つ。が。武。勇

の征伐知りわづらん。華洛めて源平の軍兵殊ふ武藏相模の郎黨とも。弓勢はあがりわらん。その対のうのどもは。甲冑以鎧ひ。弓矢以帶とれざりぬ。案山子おも芳アてぞ。あんぞらんとの成。為朝も向つて。弓を彎へるも。あやえ。そ大将と由。ぐみ平氏致。案内者ハ茂光忠重形も。と。何なりけれ。合戦ハせど。やも憎しと。あがり。奴原成射殺あ。悉く海ふ沈んと。よのいと。易けれ。筋も存。命さるもの。な。月の。益の殺生。して何らせん。ハ。はるで死せ。のりけれ。備世も。立ち。ほりて。父の意。旅成。遂。讃岐院成。位。不復し。せ。と。や。と。ぞ。と。ぞ。あれ。昔年。説法と。せ。り。に。欲知過去。因。見。其。現在。果。欲知未来。因。見。其。現在。果。とい。り。これ。罪成。造れ。の。の。必。思。趣。小。満。る。お。と。し。せ。れ。と。も。引。矢。と。れ。知。乃。あ。い。ひ。と。て。蝸牛の角。此。争。ひ。お。治。れ。と。殺。し。死。成。厭。り。と。も。れ。總。角。の。ひ。し。より。二十餘。變。の。合。戦。に。人。の。命。と。断。と。と。數。成。ち。と。び。と。り。と。も。か。の。敵。成。討。て。非。分。の。

の。成。討。て。才。の。樂。に。田。獵。せ。て。鹿。成。殺。さ。ん。又。漁。獵。以。て。鱗。と。捕。ら。せ。神。明。を。崇。敬。し。佛。陀。成。念。誦。し。と。や。く。天。下。に。名。と。と。ら。れ。と。し。と。も。過。世。の。業。因。由。て。か。の。煩。惱。成。は。し。今。生。の。惡。業。不。因。く。来。世。の。苦。難。多。ひ。中。ら。れ。と。し。十。年。以。来。附。從。ひ。ける。者。と。も。ハ。譜。代。相。傳。の。家。隸。も。も。あ。ね。不。彼。亦。成。殺。さ。ん。と。不。運。あり。と。て。お。の。く。成。見。と。子。ハ。叮。嚀。に。説。諭。ま。て。落。し。かり。あ。ま。あ。ま。を。衆。皆。數。の。の。涙。お。か。れ。れ。送。憾。け。不。出。去。け。了。為。朝。今。の。と。り。易。し。と。て。飾。さ。り。れ。り。矢。打。物。成。海。へ。棄。さ。せ。け。と。床。ル。と。い。ね。と。て。出。さ。す。ほ。お。能。江。成。え。か。り。と。れ。今。破。方。不。出。て。敵。の。分。際。成。入。ん。と。お。り。ぬ。に。爲。頼。も。の。最。期。の。用。意。を。さ。せ。よ。嶋。君。と。い。と。雅。く。て。雅。く。女子。の。み。お。り。又。能。江。も。忠。重。が。女。兒。な。れ。ば。敵。も。眼。成。かく。を。か。か。り。と。か。く。に。生。活。て。な。れ。迹。を。も。吊。り。と。宣。へ。ハ。能。江。淚。は。し。ら。み。て。世。も。も。君。も。も。疎。と。ら。れ。父。忠。重。が。故。と。り。と。惜。か。ら。ぬ。命。成。助。ら。れ。と。も。何。の。面。目。り。は。り。と。し。君。も。も。

ともこの城の浪に屍曝さんこそ願く付れとて。おのひ定し氣さけり。為朝は母をい説諭し。又鬼夜又近く振て。汝のわが子。周小柴は積み。推れり。の刃刺殺して。為朝が腹切れ。速に火を放よ。と云ひ。やとせえ。一人残るは。後卒に弓矢待て。渚のうへ。掛た多人の解江をいも。はるなり。為頼も嶋君も。なましく。あびれ。と云へ。とやく。歸了なり。あまりに。敵は侮りて。過ぎまひ。そとて。目送れ。親子主従の。あれ。この世のつれも。あれ。やあ。は。やあ。は。の。社仲の。あ。と。か。と。拂ひ。か。て。ぞ。え。え。ぞ。なり。ま。ま。さ。れ。ね。小。鬼。夜。又。は。か。つ。じ。く。立。め。ら。り。て。柴。苜。草。を。積。み。今。と。か。ら。と。せ。ひ。ふ。解。江。は。い。り。り。け。れ。の。曹。司。の。既。に。必。死。に。究。り。ま。も。某。つ。く。お。の。ひ。め。ら。り。な。今。度。討。ち。向。つ。け。る。の。全。く。茂。光。の。私。の。遺。恨。に。お。こ。れ。る。と。云。れ。は。と。て。自。殺。志。ま。り。ん。は。潔。然。と。似。て。大。死。な。り。脱。れ。は。ほ。ろ。落。定。て。時。が。あ。ら。ふ。

ふ。あ。か。ど。か。く。め。れ。ば。し。と。せ。ひ。ふ。豫。て。和。の。准。值。も。い。じ。も。い。ふ。と。や。の。と。と。は。落。多。ひ。八。郎。嶋。一。の。城。の。れ。某。亦。御。曹。司。に。諫。し。て。中。て。追。著。し。ま。ら。せ。と。く。と。い。し。も。じ。も。れ。を。解。江。と。云。れ。ば。せ。て。頼。り。人。の。志。う。お。稚。君。姫。君。は。い。ひ。され。の。れ。は。身。か。ん。の。父。上。と。り。お。さ。も。に。落。し。は。わ。か。せ。ん。願。し。し。は。ご。つ。と。と。は。従。ひ。ま。り。が。じ。父。の。よ。か。ね。と。清。い。急。に。い。く。度。々。君。に。疑。ひ。今。亦。こ。れ。脱。れ。ん。と。命。惜。ま。に。は。身。死。あ。ら。は。し。に。勇。れ。の。曹。司。に。人。敵。に。背。が。え。は。し。は。の。世。と。人。あ。も。い。れ。君。も。も。つ。れ。を。い。ん。の。と。お。と。と。立。も。あ。か。は。為。頼。も。も。ま。ま。中。の。形。は。い。ふ。も。し。り。の。最。期。の。用。意。が。せ。ま。し。と。父。の。仰。は。り。の。成。い。を。所。容。と。落。ら。れ。ば。口。潔。く。自。殺。し。て。名。の。嶋。に。ご。ら。ん。と。て。お。の。ひ。切。れ。勇。士。の。苜。麻。の。中。お。れ。蓬。な。り。鬼。夜。又。つ。て。感激。し。民間。市。井。の。童。娘。も。い。は。ご。十。や。九。ふ。て。お。の。れ。財。あ。は。は。は。ど。い。物。の。用。あ。ら。立。ば。て。も。足。齋。塚。な。れ。ば。不。は。ご。源。

家の稚君にておとされよ。あられふ船江の宣ふところ海へ自分一己の名をたて  
 忠義とはしむに故いふとかれはあつてにて死なむ。稚君も自殺しなむ。  
 曹司といふも知らぬ。そればかりの惑ひあて。二人の主君は殺しなむ。  
 参り忠重の不我小勝なり。かどりれりゆにむいゆひまかそを浅はしくしむ。  
 居丈高なるて速くは。船江と當然の理。かきめて固辞人すもく。げふと  
 ひ候はり。つがと海りて曹司は父子殺しむんや。ともかくも君の心為よか  
 んからふ計らひもく。意を折しも。嚮小為朝小徒ひて。渚の方へ赴けり。二人  
 の士卒喘く走りよつ。大床の下に跪く。息も吻もとほらけず。ほても討手の  
 大将軍狩野介茂光以下の官軍。之郎大夫忠重は御道として真先に彼が船で  
 潜し。曳声揚ぐ攻寄せり。そのとら曹司を弓杖小携け。沖の方へえり。し  
 た年へ一陣の船。兵士二百餘人射向の袖は着押し。船は東傾け。渚らかられ

ねふその間とや三町ばかり隔り。その船の大將。三郎大夫忠重なり。六十のま  
 こ。老武者の大荒目の體。突貝兎が猪首に多し。真白の鬘の後毛を  
 内甲の間よりうり乱し。小長刀が突立ち。袖先小立められ。曹司はてし  
 擬議せと係とくと下知されど。荒浪おゆりゆられて。船は左右形は乗はけ  
 り。曹司との取勢は心覺して。さへ先陣と忠重なり。矢比るは遠くはれ  
 ど。最期の矢は手漬く射し。念ひり。いでや這奴は海へ沈めて。茂光あ  
 肝が冷はしてんと宣ひ。大鍋が取らら番ひ。小肘の廻れやど。引切し。漂  
 舟と發多は。水際五寸ばかり置く。大船の腹はあさへ。衝と射徹し。兩方  
 の矢目より水入りて。船は立地小巻込まれ。忠重はうがして。二百餘人れ軍  
 兵も。水底に沈淪して。大魚の腹に葬られ。水と海はれ。士卒は角楯楯ふ  
 乗る。漂ひ。弓の管にさり著て。後陣の船は扶乗られ。辛じて命は捨つれし



三郎太夫忠重



三郎太夫忠重  
三郎太夫忠重

三郎太夫忠重

あれどこれらに僅に五六十人小遇ぞ。これに茂光ハ夥の官軍との為体小言と  
振り慌ろく船次返して。只いさげに遠巻續て寄されぬものもね。僕ハ  
彼処にて。身の暇をもうり。そと落よと宣ひしが。このゆと昔もいふ人もあ  
ゆりまわり。今ハ是はゆとあり。別道もいふと果て行方もちよわら  
にけり。龍江ハこの注進やせて。先んして足もすはほど。ゆるい恋や。こ交  
も月の悪敷といひひまが。後小君の矢先にかとて。底の水層となりぬ  
それか扶アて彼男が破方までも。供へ今又注進いせと愛を志あり  
と嗟嘆して。そより落涙は押拭ひつ。鬼夜又にしりけし。奇多ハ曹司の  
弓勢に怕れて。陸に上りて。君の御りもいふも。おねもあはし。まらぬは君  
の心供して。船に乗てうやひわり。お月もさう。稚君姫君が扶引く。船に乗  
らせもいふ。稚女ハ走りほりも自在なり。後とあひてハ便は。うと

りして為頼の袴のそばに引揚り。おね。嶋君の襟に錦の護身囊をかひねど  
されハ鬼夜ハその氣色をえて。さへはらの婦人ハ忠重ハ死せし。父て君の傍  
ど。父もいふ。いふハ死ハ究とねよと。嘆けし。一袋も及び。兼引く。嶋君を  
か抱た。為頼のふは。走りおね。ふらね。稚子もあづく。又ス。龍江早  
く父上の心供も。まひてよと宣ふも。おね。胸のこもかりて。さうし  
は。意を轉帳ても泣か。かて。鬼夜ハ敵の向され。渚に走りゆて。船底  
に為頼。嶋君のふのし。進トせ。直に為朝のおも。後方にもりて。傍てりゆ  
け。ハ。稚君姫君も。龍江ハ傳く。船に乗。滅ふ。おね。洲人。一人ハ相話。利  
嶋君で。落し。はかせたり。茂光私の意趣を。會て。討ち。おね。自殺  
あまらん。いと朽ち。畏け。僕の名。おね。ありて。館に。火。放煙の中。あ  
腹切。おね。君。と。その。隙。おね。稚子。と。い。ら。なりて。八郎嶋

へ退かれし。とやしも果てぬ。爲朝大に驚た。いふ子どもらわハ。龍江  
次傳と落したる。いられぬ。汝が米配うな。爲朝何ゆふ命に惜しむ。一  
人殺とぞ。と。いひも。か。ね。み。つ。り。と。て。藤入。い。ふ。も。の。の。の。鬼夜又々  
は。は。は。に。言。語。不。盡。忠。臣。君。の。命。お。か。ら。れ。る。の。和。漢。に。そ。の。例。多。し。紀。信  
の。車。に。燒。と。真。根。子。か。み。づ。から。切。た。れ。故。り。の。君。と。り。物。語。の。ま。は。り。と。く。  
を。う。り。あ。り。て。い。僕。は。を。佛。世。界。の。孤。嶋。お。生。れ。く。一。丈。不。通。の。荒。夷。な。れ。と。日。本  
君。の。教。諭。ふ。ら。の。人。の。善。悪。も。同。悟。し。恩。の。為。お。捨。れ。命。と。を。ち。は。り。と。惜  
し。ん。だ。か。く。ほ。ぐ。中。に。父。聽。ま。つ。は。落。し。進。ま。せ。し。維。君。姫。君。も。終。り。は。歎。不  
生。挿。ら。れ。死。後。の。恥。次。送。い。ま。い。な。ん。ほ。ぐ。ぬ。お。乘。た。日。と。て。ま。う。お。く。も。勸。む  
ぞ。爲。朝。を。も。つ。ら。お。あ。に。違。ひ。く。い。う。も。も。す。は。ば。え。某。一。足。も。落。地。人。と。は。し。ひ  
ま。の。り。が。鬼。夜。又。が。命。に。か。つ。人。と。い。ふ。誠。忠。も。然。止。か。く。維。子。ら。は。敵。の。こ。の。

いれん。さ。ん。も。念。を。り。と。や。せ。は。じ。か。く。や。せ。は。じ。や。く。な。る。意。ひ。ま。う。鬼。夜。又。頻。り。且  
練。り。し。て。笠。の。袖。次。引。け。件。の。渚。お。誘。引。彼。船。に。乗。し。ま。か。す。れ。ふ。天。の。忠  
臣。に。憐。れ。義。士。を。祐。身。ひ。け。ん。俄。頃。に。海。上。雷。轟。た。ら。て。咫。尺。の。間。も。え。え。ろ。う。終。り。  
寄。身。の。船。お。は。れ。次。あ。ら。ば。爲。朝。を。西。國。あ。て。人。と。り。又。大。嶋。に。十。餘。年。の。月  
日。次。送。り。な。身。ひ。ほ。た。に。船。次。遣。れ。と。陸。次。ゆ。が。ご。ご。ご。か。か。楫。次。と。い。ふ。  
體。走。し。雅。人。の。船。お。あ。の。び。て。せ。ま。れ。と。ま。り。ま。り。の。船。江。お。追。つ。く。と。い。ふ。  
か。く。も。な。る。と。て。利。時。次。を。も。つ。ら。お。あ。は。鬼。夜。又。と。す。あ。ら。わ。て。野。崎。の  
館。に。走。り。つ。る。お。船。江。と。只。ひ。と。り。樓。お。あ。り。て。香。次。燒。經。を。誦。し。居。り。し。が。  
鬼。夜。又。が。う。り。ま。ら。れ。を。こ。そ。ま。ぐ。た。經。次。巻。お。あ。い。う。た。曹。司。と。い。ふ。は。破。か  
に。お。り。ま。れ。飲。い。と。く。落。し。と。り。と。い。か。に。鬼。夜。又。と。す。い。の。身。骨。に。忠。重。乃。溺。死  
せ。と。い。て。い。ま。の。世。の。中。次。と。う。か。み。身。を。殺。して。忠。孝。次。全。う。せ。ん。と。お。の。ひ。定。め

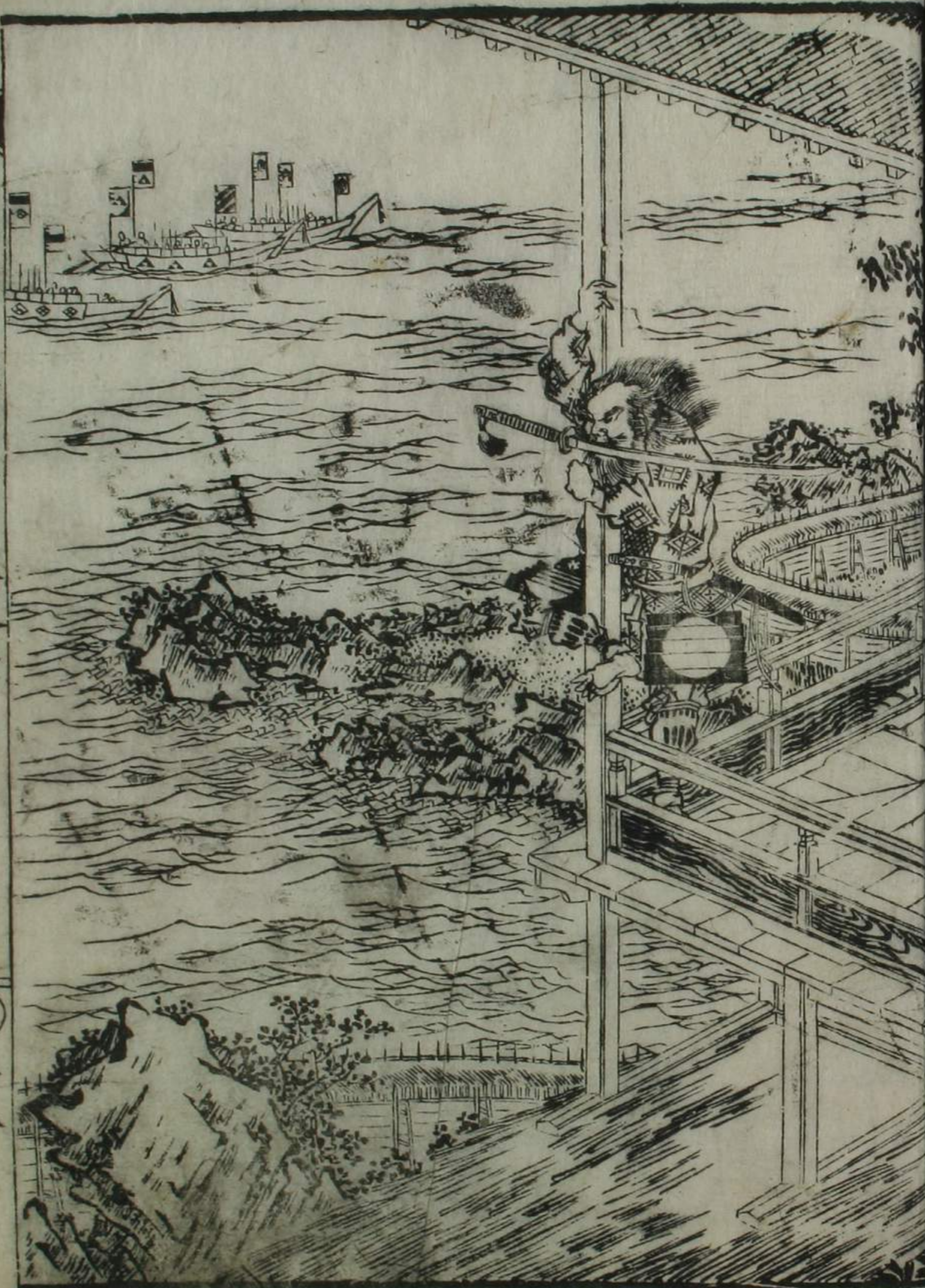


けりし言なきに強く得る。御曹司をばさへくふらへて件の船  
 に乗しはわらせ八郎はく落しもありね。まうねふとつろいそふし。たも珍とて稚君  
 姫君は船底に潜せおれり。そのつら告まうさへといへも。為頼は憐れお  
 り。ゆきおれど。利誘子で赴た身。及比中を船中に出り。其御名を字次  
 まうし。清ひ。諸小大に放と腹うた切。敵は欺え。君は後中とく。落しは  
 かりせん。為に降り。あがり。み審に物落れ。船江はく。ゆかく。たび  
 今をそや。く。移易。悪人なれども。父を父なり。されば。とて父に。あ。か。め  
 と。死。も。君に。忠。する。び。君。小。後。は。不。孝。なり。と。ても。か。く。も。船。江。が。け。く。と。死  
 わ。だ。日。お。り。け。り。と。ま。ひ。定。め。く。稚。子。ら。の。み。次。船。小。無。し。は。わ。か。せ。し。く。船。の。中  
 次。精。した。ま。ひ。て。微妙。と。か。ひ。ひ。ひ。け。れ。よ。名。の。こ。ま。は。達。と。孫。と。ひ。月。の  
 息。女。と。し。た。親。が。り。た。ま。ひ。わ。さ。ば。身。も。度。く。樂。し。た。ふ。つ。け。憂。は。け。ん。君

も不便。お。お。お。と。う。あ。つ。が。身。も。お。お。じ。側。室。は。く。給。り。も。十。年。に。あ。ま。り。産  
 せ。し。ま。し。ひ。子。ら。も。之。人。は。く。あ。ん。され。と。頑。な。れ。父。由。る。お。う。う。ら。羞  
 く。残。り。と。は。ゆ。り。け。の。船。出。外。あ。れ。と。て。取。か。れ。身。の。果。と。と。く。落。り  
 か。り。か。れ。は。鏡。と。鬼。夜。又。も。又。船。江。胸。を。刺。し。と。次。お。り。ひ。かり。今。は。何。ゆ  
 も。悔。て。か。く。つ。べ。い。ご。介。錯。し。は。わ。か。せん。と。て。刀。に。捲。く。立。め。られ。船。江。こ  
 中。に。た。り。て。用。意。の。懐。劍。と。り。出。し。今。次。限。り。と。え。え。と。折。し。も。お。も。ひ。も  
 かけ。冠。者。為。頼。妻。戸。の。蔭。より。走。り。入。り。つ。が。身。も。と。も。は。と。押。ま。り。縊  
 ら。つ。落。れ。死。も。め。せ。と。腰。を。短。刀。次。抜。と。お。ら。その。後。腹。へ。は。た。立。も。ま。い。か  
 鬼。夜。又。も。い。も。ら。く。お。り。船。江。慌。忙。と。て。こ。ろ。く。い。う。あ。と。ば。う。り。も。足。と。感。ひ  
 て。獲。り。と。え。ん。同。人。と。す。れ。よ。声。出。と。泣。と。す。れ。と。め。あ。ふ。く。に。涙。の。こ。も。あ  
 上。落。く。ま。れ。も。あ。ら。び。ど。り。乱。れ。為。頼。左。右。へ。撥。退。け。と。ま。し。ひ。が。ひ。お。く。も

又ゆれりのうね。彫江を後よりとみるんとわりのかば。薄おねふは棄たさむ。  
 父上のゆりつろりとわく。加之彫江が顔のまもおほつろわねお鳴君ふとじ  
 くら護身裏の常にかりて。あつよろかたも怪しけしは。階中うにひくた  
 ころお果して彫江が遺書ありて。父と君とに刃おたか。自害すれや  
 ありしかば。うら驚えそ。鳴君が賺うら。彼はねは。秘底おらあれた。こが刃  
 とを館再走りのかたで。前より彼処ふかくうひわて。鬼夜又。悲我あつうそ。  
 こが父とを恙お。落延多ひいとめて。はめて安堵。あつらうへの為頼らの館  
 あく自殺せむは。敵かろふに疑ひお生して。は述べ追ひしむらん。よくも船  
 よりぬりしと。こが刃れ幸お飲ひこそすれ。歎くはいとも愚痴おり。とり  
 る毎に息とれ。苦痛お忍ぶ物かろに。彫江いよ悲しくて。そえ期とと  
 にとらりても。と海紙に死おられ。ひとりゆぐ。死出の旅お稚君お伴う。

これも過世の悪業うらん。焼野の雉子。夜の誘子とほうらん。嗚呼か  
 と賤した腹お寄生の可惜。蒼お凋して。刃のつれ果のいとをしとて。声お  
 陽りに泣沈めは。鬼夜又も眼を押し。稚君自殺した身らととも。某の曹  
 司おかりり。ちとて死おれらん。敵のうごかあつめりともおちえねおわりの  
 に賢くほりて。おひひとせ。孝行が。仇の仇とらりけおり。さてお好し  
 たりと悔歎は。為頼今殺の息れ下に。思ゆる鬼夜又。為頼稚ととりとも。  
 為朝の嫡男おり。兄身入ありおら。一人もその屍おとめびと。誰か疑念  
 お發さらん。嚮に父上磯方に。出まめとね。最期の用意おせよしと。宣ひ  
 けねハ腕れが。親子が命なれおり。あうれに父を恙う。これらお処  
 死ん。おひとえくは。とりのなし。同胞も多たれと。朝稚と遠く足利か  
 人へ赴て。かれ今殺おめあつめり。と。後お伊人。あつらうは。驚れもせぬ。数か



大鳴江  
自段と



かも今朝の浪ともにはびけられその面影の目にええき忘れやねといふ  
 せん太郎九郎丸を名のるもあがりてまご達ねど身と父は意しんお母とも  
 乳母ともおろふれ船江をさても果と夕次まらね朝雲の野嶋に消さ  
 誰れ亦時君守育人長くもあね魂の渚のまれ熱に生れまら親も  
 物成おろふそ不孝の罪そ恨がれ家の艱お大嶋の冠者為頼が後の世  
 助けし人よ地藏を南無阿弥陀仏と唱け刀尖のかりに引はめと白く  
 流れ層より流れ鮮血を消残る二月の雪に紅梅の花散かすお異る  
 船江いとも眼も腫て後とはせじと把るほを懐劍お喉に突くとき  
 かこまければお慎の方に罽の声發て調乱れ松風お浪と音添お責鼓  
 撃くと響きて回らかくせれば鬼夜又はたと櫛干に身お倚くこい  
 け方を眼もくらふとや海面の霜霽て敵の兵船列と正し刀山劍樹と

大洋お涌あつれかく怪しはれ浪お映ぞれ夕陽を闇王官の獄卒お火の  
 車おひとまらりて罪人を迎ふるもかやとおぼろろりおろとて駭しん  
 軍かまひりもて時を移さるれし猛お奇られらば濤巨しりもそのしほ  
 痛はしくおつともとても助りまぬにゆふ鬼夜又が介錯に苦痛を脱と  
 そく刀お抜く為頼の御背に立ちまらりこれを目お困項次伸唱名の声  
 細おほくそくそ宣うおぞ八郎嶋におりまら太郎九郎丸のゆ未  
 いくおとおろひなり是彼おほじ也曹司の心子にハめれどかお女児の産おめ  
 ぼかいらる恩義小腕も癱麻主おあてん忍もろく又船江が後方  
 立ちおれば三十にまご足らぬ姿の花を匂やうにかく賢おれハ浴おめ  
 やあしに嶋山の稚木をま下に枯らけうとまらばもひとり子の長女  
 が面影眼おつええき猛とら海もよりの果涙を盡ぬ本の露未の帯と

かたはるにいづれを先いび且後と。そとちひ定むと。能江やうやくえ之  
まで。臆しあつしひかひは。こつハもものれ雅君の若痛不ぼと。あつ  
に。女し死ハ日あも。似げあつと。そと。所せ。鬼夜又げふと。点び。今を  
公を鬼はしつ。閃さ刃の下。二人が首を落てけり。かて鬼夜又ハ泣く死  
次しつ。小あせ。念佛十遍ごう唱け。茶毘虫あわね用意の柴。小走り  
て火放。放。折しも。烈し。浦風に。簷より。軒へ吹うつ。大履高樓。忽地  
小燭となつ。燃揚れ。鬼夜又腹巻解捨。立おがら。腹を切。猛火の中  
に。飛入りて。灰燼となつて。失おけり。寄手の軍兵。目今火光の場を見  
て。猛小騒だ。とら。とらや。為朝と。館小火。かけ。自害。それとおぼえ。より。  
寄せ。よく。と。罵。ア。の。い。衆。皆。解。け。乗。り。て。馬。の。足。の。立。ほ。ど。あ。も。な。り。しか。ど。  
馬。も。追。お。ち。て。と。と。と。と。打。乗。り。辛。じて。磯。小。登。り。に。され。と。と。と。と。引。は。

て討んぞ。人謀あやと。九右形は。おも入り。ゆ。是。全。く。官。軍。の。臆。せ。し。丹  
もの。只。日。末。為。朝。の。武。勇。よ。く。人。を。心。と。れ。お。足。と。れ。が。故。あり。と。か。と。と。  
行。館。と。も。や。焼。落。と。挂。れ。の。一。人。も。は。し。お。り。に。長。倉。強。く。焼。い。ハ。バ  
浦。と。と。と。と。と。先。陣。と。け。て。え。は。か。加。藤。次。景。廉。一。番。小。と。み  
入。お。七。尺。有。高。の。大。男。ま。お。が。ら。腹。を。切。と。れ。あり。全。體。賊。と。て。え。と。れ。と。  
け。且。こ。れ。為。朝。と。と。と。と。と。その。首。を。捕。れ。こ。の。好。あ。ハ。八。九。才。だ。れ。男。の。童。の  
屍。と。女。の。屍。と。只。二。つ。あり。童。と。頭。冠。者。為。頼。婦。人。ハ。為。朝。の。側。室。能。江。と  
と。洲。人。ホ。ガ。ヤ。ス。お。よ。つ。と。そ。ハ。件。の。大。男。は。為。朝。お。紛。且。は。と。て。景。廉。次  
この。日。高。名。の。一。の。筆。に。紀。し。為。朝。の。首。を。同。年。の。五。月。洛。上。せ。ハ。後。白  
河。法。皇。と。二。條。京。極。小。御。車。に。立。し。く。獻。覽。の。り。洛。中。の。貴。賤。道。俗。皆  
かり。集。ひ。と。を。え。れ。あ。つ。れ。も。焼。首。だ。れ。ハ。上。一。人。より。下。臆。あ。い。と。れ。と。



春説子良月後集卷之三

春説子良月後集卷之三  
火の十よ  
鬼夜叉  
死を



春説子良月後集卷之三

冬枯ふ夕貞の棚なるがしれん持して。こころの丹ふてとありけれ。[按る]。参考保元物語。源倉本。半井本の異同を奉て曰。

その後為朝ハ家小火火け。腹搔切中柱小背をあて弓杖はけうき。中柱云云。兵共家の焼るはて舟も寄て打入しけ。虚死やんと猶怖るて。左右も入る。家の焼落んとし。加藤次景廉云云。

とあり。ければ鬼夜又が館小火火かけて敵敗れりといふ説ハ少。据ありとあるが下。抑為朝十二歳あて筑紫へ下り。九州を二年あ打。後十八歳あて洛小上り。保元の合戦あ名を顯。大鳴小滴とて。鳴る。以管領さする。十一年。その威徳。平夏に振をいとも勅勸の身なれば。終小志成伸れに至る。嘉應二年四月下旬二十八歳あて自殺せし。

と世あひひりて。これハ往時平治の擾乱小諸源こころ滅せ。只平家の朝恩小浴して。官位俸禄意小はうせどといふとは。為朝の假首洛へ上りしころ。何れありけり。

三つと打とて。あてとせり。千代の為朝さるへりけり。この寺都鄙小修く。人小贈灸せし。小松大臣重盛眉小髯。あて人小宜さる。為朝さる。世あひひり。茂光出ぬ。質首小捕り。密洛る。その人。何あて。か。ハ宜あ。や。同重盛。これ街の落首。彼。水。打とて。あて。水元酒。果。彼。命てあり。又。代。の。為。朝。え。れ。り。け。り。は。為。朝。の。ゆ。く。と。祝して。び。世。あ。ひ。出。子。孫。千。代。も。榮。え。ん。と。い。ふ。ハ。郎。源。家。の。嫡。

流めて武勇拔群あれのそねん。忠誠存し。義兵守る。田横同羽が風  
 あり。りこれ小弓矢を主せあつた。天下の掌にあらう。人し。茂光私の意趣は  
 散さんあ。討まはらう。し。清とりも。為朝の敵にあら。泣。欺。し。れ。り。べ  
 ろう。え。よく。為朝終志。死。び。ひ。よ。の。人。小。面。成。の。わ。と。を。か。ら。び  
 一。且。志。成。び。も。又。家。の。仇。も。形。く。入。も。み。月。この。人。あり。と。宣。ひ。し。が。果  
 中。れ。と。と。あり。重。盛。れ。先。見。か。れ。る。は。多。かり。是。と。と。て。お。れ。為。朝。の  
 その。日。鬼。夜。又。小。練。られ。と。何。あ。ら。ば。も。小。乘。る。利。嶋。の。か。く。落。と。う。し。し。ら  
 それ。と。お。り。小。船。が。え。と。は。て。ハ。子。ご。も。ら。け。ハ。郎。嶋。へ。赴。れ。ん。と。て。い。い。も  
 ち。の。潮。お。ほ。り。し。つ。ら。ち。ち。り。枝。嶋。に。来。出。小。船。が。歌。た。り。と。を  
 天。と。ほ。の。く。と。明。あ。け。と。の。嶋。に。て。は。渡。海。い。く。難。儀。な。れ。お。か。く。速。う。小。耳  
 ぼ。れ。こ。と。不。志。誠。なり。と。ひ。し。り。あら。な。人。も。忽。地。船。底。小。稚。児。の。泣。声。と。あ。り

怪しとて。中。が。て。板。子。反。揚。け。え。と。ほ。め。に。あ。さ。痛。嶋。君。を。只。お。り。り。泣  
 掛。て。お。り。し。う。は。と。い。う。や。と。忙。し。く。抱。き。あ。げ。と。ま。づ。に。賺。に。ら。て。縁。故。次  
 向。き。入。ハ。嶋。君。や。う。や。く。涙。が。と。と。め。この。小。船。江。が。兄。上。と。も。に。船。小。乗。れ。と。を  
 身。も。後。より。あ。り。り。ゆ。い。ん。と。ま。う。せ。か。が。鬼。夜。又。小。伴。と。て。ら。の。船。底。小。潜。ひ  
 居。り。待。も。く。船。江。を。耳。ぞ。その。と。れ。兄。上。の。宣。ふ。や。う。それ。ハ。家。小。走。り。ゆ。り  
 て。父。上。と。船。江。お。れ。誘。引。く。ゆ。び。く。身。を。し。し。身。は。あ。ら。う。く。あ。い。に。せ。よ。相  
 構。く。声。が。あ。ら。う。と。い。ひ。そ。と。え。お。れ。二。枚。の。書。翰。が。マ。ハ。つ。が。懐。お。は。し。入。れ  
 け。慌。し。く。野。嶋。の。か。く。走。去。う。ほ。ひ。が。その。後。と。と。え。て。音。げ。れ。も。な。し  
 悲。し。い。あ。ら。う。も。あ。ら。う。と。音。さ。せ。と。仰。せ。あ。ら。う。堪。え。の。び。く。ゆ。り  
 ち。う。と。今。父。上。の。声。が。あ。ら。う。と。飲。し。お。り。ハ。涙。の。こ。も。り。落。と。お。り。ら。せ  
 も。声。が。あ。ら。う。と。ほ。り。ら。ぬ。舌。小。愛。く。き。首。尾。が。告。ぐ。と。入。の。為。朝



いよく不審で鳴君の懐に搔探り。件の書翰が引出し。押戻れ。こゝろの  
 に一枚を鮎江が遺書として忠孝の二ッ小笥に入れた。自殺するやうに  
 写し。又一枚を為頼のむろひ書せし終善寺紙に字を運びに雅けきと  
 ころ返りかきおとるひて一旦鮎江鬼夜又がうらうらほし。船に乗て  
 へも父上のるおほつら。ゆゑに館を走りぬり。自害して失はれしや  
 志にしの脱れども世に立へるもさうねりの死に死に死に死に死に  
 おおれ辱多しと日よ教訓したまはれぬ。のるおほひ當りて最期を  
 いそぐれぬ。と書さめぬ。健氣さへ為朝の紙のうへに。とて涙を落し  
 大息を吐き。宜少中。これ鬼夜又小賺され。大鳴が脱と去り。却為頼鮎江  
 かに死後。しとを迷恨なれ。彼より残ア留アぬと考はる。は。まてうら  
 へど退つた。と。中子もらにハ鮎江が傳へ。利鳴のかゝ落した。と。鬼

夜又がやせあやう。敵とのみか。あは村田は。あか。とれ。と。為朝愛  
 子に惑溺し。ひそくに落したり。うんと。いれんが。打惜は。不追。あ。う。う。て  
 おか。後。中。入。水。せ。や。と。お。ひ。の。死。ひ。と。や。彼。も。死。し。と。わ。と  
 ひとり。この。鳴。が。根。に。ま。い。ん。と。は。と。清。き。と。て。蹊。踏。し。智。勇。母。長。名  
 將。も。この。ハ。千。な。び。身。と。恨。も。最。期。と。い。その。灯。花。の。雪。う。り。先。一。浦。よ。と  
 鳴。君。又。う。ら。う。と。引。よ。せ。氷。な。と。刀。を。抜。て。既。お。刺。んと。あ。ま。折。し。も。忽。地  
 一。般。の。獵。船。と。ら。ち。や。う。の。か。より。漕。舟。り。か。く。こ。ん。て。声。が。ぬ。り。と。て。喃  
 呼。曹。司。志。に。結。多。と。呼。と。あ。け。飛。ぶ。と。く。に。乗。ま。す。その。船。小。跳。り。入。り。  
 為。朝。が。押。隔。と。鳴。君。を。抱。れ。と。れ。の。あ。り。と。この。人。を。誰。と。次。れ。卷。が  
 開。して。あ。れ。を。じ。

馬琴ぬくび接ぎれ。不流布の保元物持。嘉應二年四月下旬為朝



伊豆の大嶋に於いて自害し享年二十歳と見えたり。されども同書  
 に保元元年為朝十八歳とありたり。これを俣とせば嘉應二年亦  
 至り二十八歳とありて宣なれる。参考小諸本の異同に挙る。實録  
 所見はしり。亦いふ京師本に為朝の自殺をりて二十八歳と。叔  
 原本三十八歳と。京師叔原鎌倉半井の四本と。何の年といふに  
 系圖小為朝安元二年二月六日伊豆の大嶋に於て討つと見えたり。保元  
 元年十八歳なるといふ。安元二年當り三十八つに達し。その説叔原本と  
 合ふ。以上要と摘。又八郎明神の縁起に兼安二年癸巳秋八月十五日小嶋  
 に於て自滅せりといふ。嘉應二年より兼安二年に至る。相去ること  
 四年兼安二年より安元二年に至る。又相去ること四年あり。諸説を  
 看とればとてかくの如し。考ればとせば為朝自殺の年月及び存亡も。し

より定むれば。しりしと見えたり。されどもよく思ふに為朝大嶋に脱とあり。  
 蹟は南海ふとありし。といひはく。これ故なれば。ふと。の弓張月を  
 とく風を捕り影を追ふの草紙物語なれば。この一條の諸説を引て  
 補ひし。はしりしもの。予元来好古の癖あり。とて。及びて漫小蛇足の  
 辨を添ふ。所謂雞頭花なりし。裁は牛車に用れたること。ひらきでし。

椿説弓張月後篇卷之三畢

